

## 人間文化研究機構国文学研究資料館

### 2025（令和7）年度第1回運営会議 議事要旨

- 【日時】 2025（令和7）年6月26日（金） 15：00～17：20
- 【場所】 Zoom
- 【出席者】 安藤宏、入口敦志（議長）、大山敬三、岡崎真紀子、川平敏文、木越俊介、久富木原玲、倉員正江（副議長）、佐藤至子、鈴木淳、ダヴァン・ディディエ、田淵句美子、張龍妹、中西智子、西村慎太郎、ロバート・ヒューイ、山本和明、山本聡美の各委員
- 【欠席者】 遠山敦子、八木敏郎、山地一禎の各委員
- 【陪席者】 渡部泰明館長、秋庭祥亜管理部長、笠原政宏総務課長、内海隆博財務課長、片岡真学術情報課長、その他関係職員

議事に先立ち、渡部館長から挨拶があった。

笠原総務課長から、会議の定足数について、運営会議委員21名のうち、欠席者は3名で過半数11名以上となり、18名出席しているため定足数を満たしている旨報告があった。

続いて、本年度より新たに就任した委員2名、2025（令和7）年4月1日付で着任した研究教育職員及び特任研究員の2名から自己紹介があった。

#### 議 事

【前回（2025（令和7）年2月21日）運営会議議事要旨の確認】

原案のとおり了承された。

【審議事項】

- 1 人事協議会委員の選出について （資料1）
- 入口議長から、人事協議会委員として、館外から安藤委員、田淵委員、館内から岡崎委員、木越委員、西村委員を選出したいとの提案があり、審議の結果、了承された。

【報告事項】

- 1 研究教育職員の人事について （資料なし）
- 渡部館長から、以下の報告があった。
- (1) 歴史学を専門とする准教授1名、人文情報学を専門とする准教授1名の採用を考えている。
- (2) 人文情報学または情報学を専門とする特任准教授または特任助教1名の採用を考えている。
- なお、入口議長から、(1)に関しては人事協議会で募集要項等を審議し、第2回運営会議で候補者の採用について審議を行う予定である旨補足説明があった。

本件に関して、久富木原委員から、採用予定人数の根拠について、研究教育職員の退職等による欠員補充のためか、国文学研究資料館全体の研究教育職員の定数を満たすためのものか、もしくはそれらとは別に設定された人数であるかとの質問があった。また、採用予定の専門分野の根拠についても、研究教育職員の退職等による欠員補充か、新たな分野の採用かという質問があった。

渡部館長から、国文学研究資料館の人事は、基本的に 1 件ごとに新たに検討するものであり、研究教育職員の退職等による人数及び専門分野の偏りは勿論考慮に入れるが、欠員補充等のために採用するという性格のものではないこと、研究教育職員の定数も特に設けていないことの説明があった。

## 2 データ駆動による課題解決型人文学の創成 2025（令和 7）年度事業計画について

（資料 2）

入口議長から、「データ駆動による課題解決型人文学の創成—データ基盤の構築・活用による次世代型人文学研究の開拓—」（略称「国文研DDHプロジェクト」）に関して、2025（令和 7）年度の事業計画の概要・予算及び取組みについて以下のような報告があった。

- (1) 研究基盤データベースのデータ拡充・高度化のための画像データ及び OCR によるテキストデータの作成、異文化融合によるデータ駆動型研究等の推進として共同研究の実施及び「古典籍データ駆動研究センターマテリアル分析共同利用実験室」の設置
- (2) 若手研究者の人材育成として人間文化研究機構の若手研究者海外派遣プログラムに 1 名を派遣すること
- (3) 国際交流の取組みとして NCC（北米日本研究資料調整協議会）と連携すること
- (4) 本プロジェクトに関する情報発信の一環として、12 月 11 日（木）に当館大会議室において、国文研 DDH プロジェクト第 1 回国際研究集会「古典テキストの最前線」を開催すること

## 3 共同研究等について

（資料 3）

岡崎委員から、2025（令和 7）年度から新たに特定研究 9 件を開始するとの報告があった。

## 4 2024（令和 6）年度事業報告について

（資料 4）

各事業部及びセンターの担当者から、以下のような報告があった。

### (1) 学術資料部

木越委員から、各地の日本文学原典及びその関連資料調査とその成果としての『調査研究報告』の刊行、人間文化研究機構長裁量経費による「DH 基盤整備に基づく地域文化資料の総合的研究による社会共創の推進」事業として地域文化拠点を対象とした資料の保存収集及びそれに基づく研究成果の現地地域社会への還元（セミナー等の開催）、アーカイブズの調査・収集及び目録の刊行、資料の受入・整理、資料の保存措置・修復作業、閲覧室の開室日程の新型コロナウイルス感染症対策制限の撤廃、資料の展示貸付、日本古典籍講習会の開催及び Web 配信、若手研究者を対象とした講習会の実施、当館所蔵資料のパブリック・ドメインでのデータベース公開等を行ったとの報告があった。

### (2) 国際連携部

ダヴァン委員から、次世代育成を目的とした国際日本文学研究集会、文献資料ワークショップ、日本古典籍セミナー、日本古典籍（くずし字）講習会、国際シンポジウム檀国大学校 - NIJL2024 の開催、国際ネットワークの充実を目的とした海外の学術会議における企画及び海外機関との学術交流協定の締結・更新、インターナショナルな情報発信を目的とした編集専門部会において英文オンライン・ジャーナルの刊行、在外日本古典籍所蔵機関ディレクトリの維持・管理等の取組み行ったとの報告があった。

### (3) 社会連携部

中西委員から、「古典の日」講演会と併せて開催した「第17回日本古典文学学術賞」授賞式による若手研究者の支援取組みの紹介、たましん美術館との共催による「源氏物語の新世界ー明け暮れ書き読みいとなみおはすー」の開催、アーカイブズ・カレッジの開催による人材育成、大学等のゼミや大学院インターンシップの受入れ及び高等学校への出前授業による教育支援、国文研DDHプロジェクト広報誌「ふみ」や平凡社ブックレットの刊行、「ぷらっとこくぶんけん」や「こくぶんけんトーク」開催による地域社会との連携、人文知コミュニケーターの活動を行ったとの報告があった。また、ないじえる芸術共創ラボの今後の資金獲得については検討を要する旨報告があった。

### (4) 古典籍データ駆動研究センター

大山委員から、「研究基盤整備部門」及び「データ駆動型研究推進部門」の2つの部門において、「データインフラストラクチャの構築」、「人文系データ分析技術の開発」、「コンテンツ解析からの展開」、「マテリアル分析・解析」の4つの研究分野を推進していること、併せて、国文研DDHプロジェクトにおける異分野融合によるデータ駆動型研究の推進を目的とした国文研プロジェクト型共同研究において、くずし字のOCR解析の新方式提案、廣瀬本万葉集のTEIデータ拡充及び関連情報の追加・公開、中高生向けの古典資料の継承意識の涵養手法に関する教育的実践研究を実施したこと及び重点課題研究の区分を新たに設定したこと、関連プロジェクトとして基幹事業センター及び基盤データセンターと連携した各データの再構築を行ったことについて報告があった。

また、設備整備として「マテリアル分析共同利用実験室」の開設（2025（令和7）年3月）及び古典籍等の試料を非破壊で分析できる微小部X線分析装置の導入、情報発信等として2024（令和6）年12月1日にデータ駆動による課題解決型人文学の創成～データ基盤の構築・活用による次世代型人文学研究の開拓～KICKOFF SYMPOSIUM「AI×人文学ーデータ駆動による未来形成ー」の開催、人文学研究者のための「DH研究推進ポータル」の公開、海外の研究大会及びワークショップでの意見交換等を実施したことについて報告があった。

### (5) 基盤データセンター

山本和明委員から、大型プロジェクトにおける研究基盤データベースのデータ拡充及び高度化を担当し、特に画像データの拡充、テキストデータの作成及び進捗管理を行っていること、ならびに学術資料事業部が担当していた画像作成業務を引き継いだ旨報告があった。そのうえで、画像データ15,000点の作成、書誌データの作成及び公開、プロジェクト推進室会議等での今後のテキストデータ作成及び公開方針の策定、OCRによるテキストデータ23,933点の作成、OCRテキストデータの校正データ126点の作成、国書データベースの充実として当館所

蔵資料 26,000 点のパブリック・ドメイン化、科研費等で作成した画像を国書データベースに掲載するための方式の運用開始、また、NW事業では着手できなかった海外所在の日本語古典籍資料について、NCC（北米日本研究資料調整協議会）と提携して行う北米の日本語古典籍資料のデジタル化に関する取組み「NIJL-NCC/CDDP Digitization Grant Program」の開始、島崎藤村「夜明け前」等の近代資料の公開を行ったとの報告があった。

本件に関して、以下のような質疑応答及び委員からの発言があった。

(1) 佐藤委員から、学術資料部の事業報告に関して、海外からの複写申込みはどの程度あるのかとの質問があった。

竹村学術情報課課長補佐から、現状としては、海外からの複写申込はほとんどない旨説明があった。

(2) 佐藤委員から、海外の研究者及び研究機関と提携していくうえで、複写申込みの方法について、海外の研究者が利用しやすいように複写申込料支払いのクレジットカード対応、メール以外の申請受付等を検討していただきたいとの発言があった。

木越委員から、ニーズがあれば対応していきたいとの発言があった。

#### 5 大学院教育について (資料 5)

西村委員から、特別共同利用研究員及び総合研究大学院大学日本文学研究コースの学生等の受入状況等の報告があった。

#### 6 その他

##### (1) 2025（令和 7）年度の催し物について (資料 6)

入口議長から 2025（令和 7）年度の当館の催し物について報告があり、11月1日（土）に開催予定の「古典の日」講演会及び第 18 回「日本古典文学学術賞」授賞式、12月11日（木）に開催予定の国文研 DDH プロジェクト第 1 回国際研究集会「古典テキストの最前線」等のイベントに関する案内があった。

#### 【当館へのご意見等】

館外の各委員から、当館の事業等について感想および意見の表明があった。

入口議長から、今年度の運営会議の日程について、以下の説明があった。

第 2 回目 2025（令和 7）年 11 月 7 日（金）15 時 30 分から対面で開催

第 3 回目 2026（令和 8）年 2 月 20 日（金）15 時 00 分からオンラインで開催

同じく入口議長から、第 2 回目会議の日は当館展示室にて企画展示『碧洋白田甚五郎のまなざし—和歌・物語・歌謡』を開催中であり、ギャラリートークを行う旨報告があった。

以上